

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。
さて、「インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(円投資型)(愛称 インフラ・ザ・ジャパン(円投資型))」は、このたび、第120期の決算を行いました。

当ファンドは、インフラ関連好配当資産マザーファンドを通じて、主として、わが国の金融商品取引所上場(上場予定を含みます。)の株式等および不動産投資信託証券に投資を行い、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第120期末(2023年5月15日)

基準価額	11,720円
純資産総額	3,541百万円
第115期～第120期	
騰落率	2.9%
分配金(税引前)合計	240円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

インフラ関連好配当資産ファンド (毎月決算型)(円投資型) (愛称 インフラ・ザ・ジャパン(円投資型))

追加型投信/国内/資産複合

作成対象期間：2022年11月15日～2023年5月15日

交付運用報告書

第115期(決算日2022年12月14日) 第118期(決算日2023年3月14日)

第116期(決算日2023年1月16日) 第119期(決算日2023年4月14日)

第117期(決算日2023年2月14日) 第120期(決算日2023年5月15日)



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社投信営業部へ

フリーダイヤル ☎0120-048-214 (営業日の9:00～17:00)

お取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

※岡三アセットマネジメント株式会社は2023年7月1日をもってSBI岡三アセットマネジメント株式会社へ商号を変更いたします。
新ホームページアドレスは<https://www.sbiokasan-am.co.jp>です。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2022年11月15日～2023年5月15日)



第115期首：11,631円

第120期末：11,720円 (既払分配金(税引前):240円)

騰落率：2.9% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2022年11月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「インフラ関連好配当資産マザーファンド(以下、マザーファンドといいます。)」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

(国内株式)

- ・三井住友フィナンシャルグループや三菱UFJフィナンシャル・グループ、信越化学工業などの株価上昇が主なプラス要因となりました。

(J-REIT)

- ・インヴィンシブル投資法人やコンフォリア・レジデンシャル投資法人、日本アコモデーションファンド投資法人などの投資口価格の上昇が主なプラス要因となりました。

(主なマイナス要因)

(国内株式)

- ・ウエストホールディングスやシーアールイー、富士電機などの株価下落が主なマイナス要因となりました。

(J-R E I T)

- ・日本ビルファンド投資法人やジャパンリアルエステイト投資法人、ヒューリックリート投資法人などの投資口価格の下落が主なマイナス要因となりました。

1万口当たりの費用明細

(2022年11月15日～2023年5月15日)

項 目	第115期～第120期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	90 (44) (44) (3)	0.795 (0.384) (0.384) (0.027)	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	10 (5) (5)	0.088 (0.047) (0.040)	(b) 売買委託手数料＝作成期間中の売買委託手数料÷作成期間中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (そ の 他)	1 (1) (0)	0.006 (0.005) (0.000)	(c) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金銭信託支払手数料
合 計	101	0.889	
作成期間中の平均基準価額は、11,335円です。			

(注) 作成期間中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

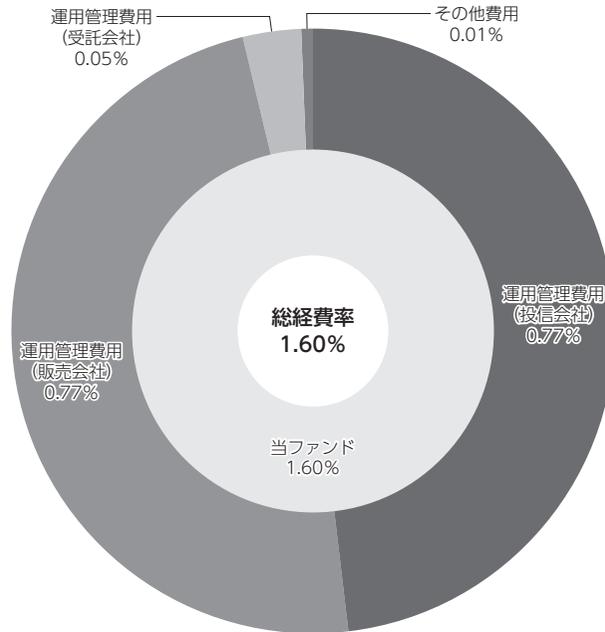
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まれます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間中の平均受益権口数に作成期間中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.60%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

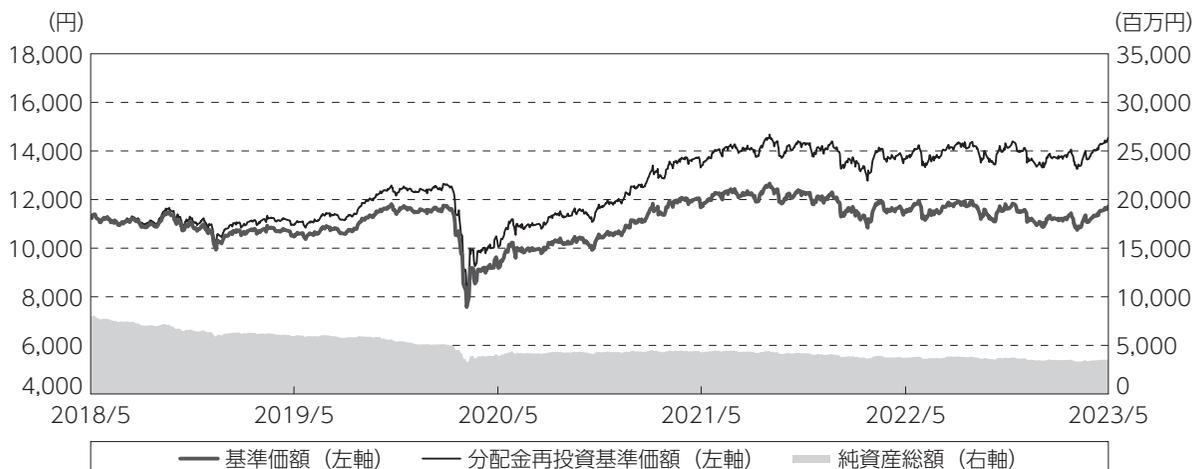
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年5月14日～2023年5月15日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、2018年5月14日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年5月14日 期初	2019年5月14日 決算日	2020年5月14日 決算日	2021年5月14日 決算日	2022年5月16日 決算日	2023年5月15日 決算日
基準価額 (円)	11,302	10,473	9,271	11,695	11,477	11,720
期間分配金合計(税引前) (円)	—	480	480	480	480	480
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 3.1	△ 7.3	31.9	2.2	6.5
合成指数騰落率 (%)	—	△ 0.4	△ 6.8	32.8	1.9	8.1
純資産総額 (百万円)	8,027	5,955	3,942	4,279	3,722	3,541

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 合成指数(東証株価指数(TOPIX)(配当込み)50%および東証REIT指数(配当込み)50%を合成した指数)(以下同じ)は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する指数として記載しているものです。

投資環境

(2022年11月15日～2023年5月15日)

国内株式市場は、米金融当局による利上げペースの減速観測や日銀による大規模金融緩和策の一部修正などを背景に円高/米ドル安が進行したことから、2023年1月上旬にかけて下落しました。しかしその後は、植田次期日銀総裁候補が金融緩和を継続する姿勢を示したことや、中国の景気回復期待が高まったことから投資家のリスクセンチメントが改善し、反発しました。作成期末にかけては、米国の中堅銀行の破綻をきっかけとした金融不安の高まりから乱高下する場面が見られたものの、日銀金融政策決定会合で金融緩和の継続が決定され安心感が広がったことや、世界的に日本株を見直す機運が高まったことなどから、国内株式市場は上値を試す動きとなりました。

J-R E I T市場は、当初は小幅なレンジ内で推移したものの2022年12月の日銀金融政策決定会合で金融政策の一部修正が決定されると国内長期金利が急上昇し、借入コスト上昇による業績への悪影響や不動産価格下落などが連想され急落しました。その後は上値の重い動きが続き、2023年3月に米国で複数の銀行が経営破綻したことから金融システム不安が高まると、下げ幅を拡大しました。しかし作成期末にかけては、バリュエーション面での割安さや新年度入りに伴う需給の改善などから戻りを試す動きとなりました。加えて、4月末に行われた新総裁となって初めての日銀金融政策決定会合で緩和的な金融政策が維持され、短期的に金利上昇懸念が和らいだことも上昇要因となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年11月15日～2023年5月15日)

国内株式およびJ-R E I Tの運用はマザーファンドを通じて行いました。マザーファンドの運用につきましては、銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けました。

資産配分に関しては、作成期間を通して株式への投資比率をJ-R E I T比で高めとしました。

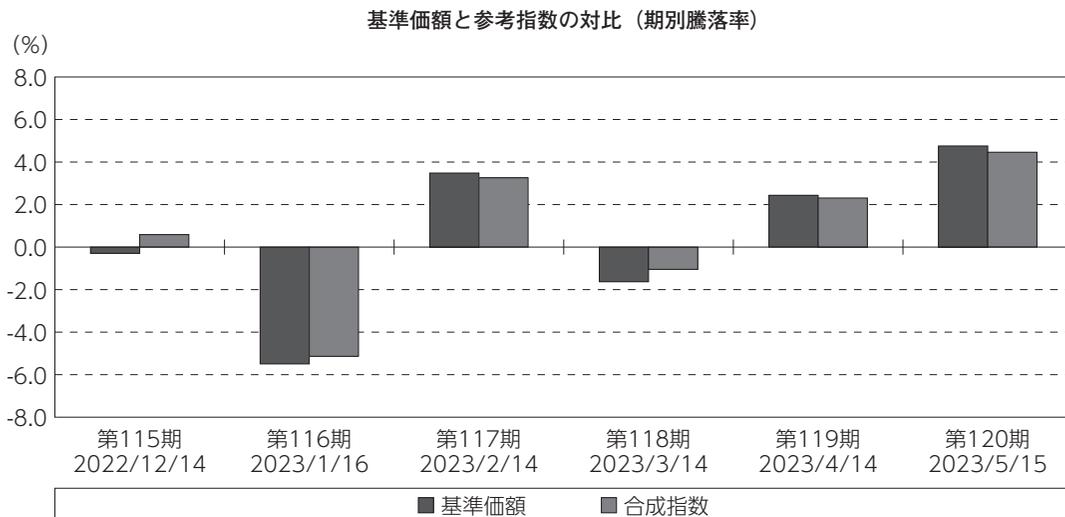
国内株式では、引き続き経済や社会の基盤を担い、長期にわたって安定的な成長が期待できる企業に投資を行いました。具体的には、半導体などの分野で悪材料の出尽くしが近づきつつあるなか、市場サイクルの底打ち・反転を織り込む投資機会を探り電気機器株を新規に組み入れました。その他では、コロナ禍からの回復が進展するなか、新駅・新施設の開業や関西万博の開催など賑わいを喚起するイベントが続く西日本エリアの人流活性化に期待し陸運株なども新たに組み入れました。一方で、バイオCDMO(医薬品受託製造)事業の来期利益がコストアップで伸び悩みが予想されるほか、増強設備が収益貢献する再来期までカタリスト不在と判断した化学株などを全売却しました。

J-R E I Tでは、相対的に高水準の分配金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の確保を目指して運用を行いました。具体的には、インバウンド(訪日外国人)が復調するなか、コロナ禍で進めた効率化や客室単価の引き上げで収益が改善しているホテル系の総合型リート銘柄を新規に組み入れました。一方、供給過剰問題など引き続きネガティブなニュースフローが多く盛り上がる要素が乏しいオフィス型リート銘柄などを全売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年11月15日～2023年5月15日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。下記のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金(税引前)込みです。

(注) 参考指数は、合成指数です。

分配金

(2022年11月15日～2023年5月15日)

当ファンドは、毎月14日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して分配金額を決定します。

当作成期中につきましては、毎期1万口当たり40円(税引前)、合計240円(税引前)の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位:円、1万口当たり・税引前)

項 目	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期	第120期
	2022年11月15日～ 2022年12月14日	2022年12月15日～ 2023年1月16日	2023年1月17日～ 2023年2月14日	2023年2月15日～ 2023年3月14日	2023年3月15日～ 2023年4月14日	2023年4月15日～ 2023年5月15日
当期分配金	40	40	40	40	40	40
(対基準価額比率)	0.345%	0.366%	0.355%	0.362%	0.355%	0.340%
当期の収益	—	4	16	21	40	10
当期の収益以外	40	35	23	18	—	29
翌期繰越分配対象額	2,529	2,494	2,470	2,452	2,488	2,459

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当面の国内株式市場は上値を試す展開を想定しています。欧米と比較して金融環境が安定していることや、コロナ禍からの経済活動の正常化も本格化しつつあることから、日本経済の実体は相対的に良好と見ています。訪日外客数も水際対策の緩和や国際線発着便の増便により、増加ペースが加速する見通しで、国内景気の押し上げ要因として期待されています。相対的に良好な経済環境や割安なバリュエーションは、国内株式市場の上値を試す原動力になると見ていますが、引き続き、欧米の金融システム不安はリスク要因と考え警戒しています。特に、米国では金融機関に対する規制強化や与信厳格化の動きが、既に減速傾向にある実体経済へ悪影響を及ぼすことが懸念されます。国内株式市場も米国経済減速の影響は免れ得ず、上昇一巡後には調整を余儀なくされる展開を予想します。

J-R E I T市場はレンジ内での推移が続くと予想します。リートの賃貸事業収益は、ホテルはコロナ禍からの回復が続いているものの、オフィスは空室率の高止まりに加え大量供給の影響から軟調な状況が続いており、全体としては小幅な増益にとどまると考えます。また不動産価格は高値圏で推移しており、足元のリートの投資口価格を勘案すると新規の物件取得による成長はやや見込みにくい状況となっています。そのため積極的に上値を追いにくい状況と見ています。一方で、新総裁となって初めての日銀金融政策決定会合では、緩和的な金融政策の継続が示されました。このことからJ-R E I Tの相対的な分配金利回りの高さを背景に資金の流入が期待され、下落余地も限定的と見ております。

引き続き銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。

お知らせ

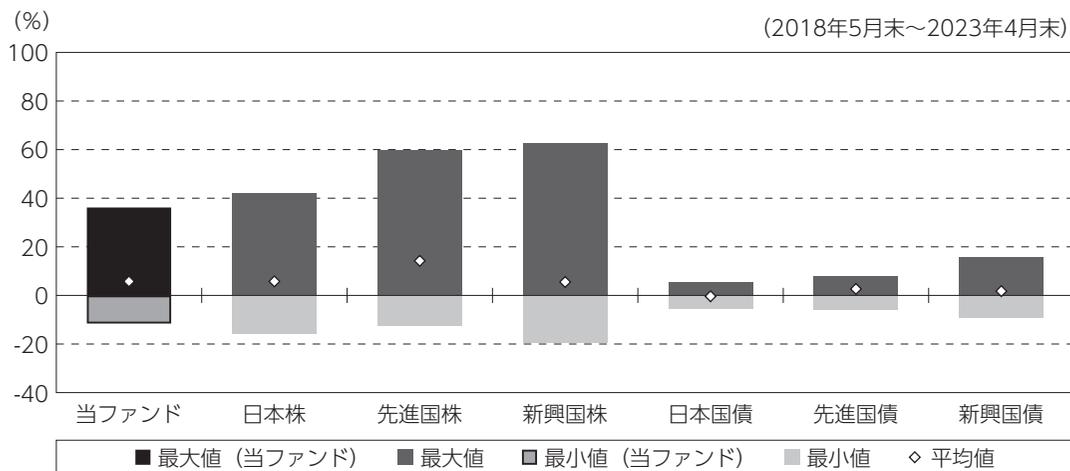
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／資産複合	
信託期間	2013年5月23日から2024年11月14日までです。	
運用方針	インフラ関連好配当資産マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等および不動産投資信託証券（以下、「J-R E I T」といいます。）に投資を行い、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。外国為替予約取引等はありません。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等およびJ-R E I Tを主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用を行います。
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	株式等への投資にあたっては、インフラ関連企業に着目し、業績動向、財務状況、配当利回り等を勘案し、銘柄を選定します。 J-R E I Tへの投資にあたっては、個別銘柄の調査・分析に基づいて、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の確保を目指して運用を行います。銘柄選択ならびに資産配分に関して、リそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。
分配方針	毎月14日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	36.2	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△ 11.6	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	5.8	5.8	14.2	5.5	△ 0.4	2.7	1.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年5月から2023年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

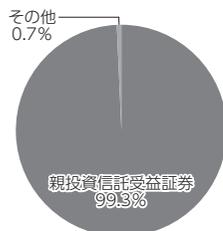
組入資産の内容

(2023年5月15日現在)

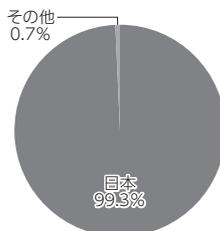
○組入上位ファンド

銘柄名	第120期末
インフラ関連好配当資産マザーファンド	99.3%
組入銘柄数	1銘柄

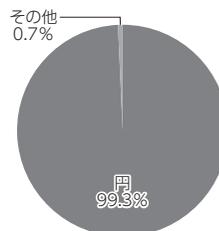
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

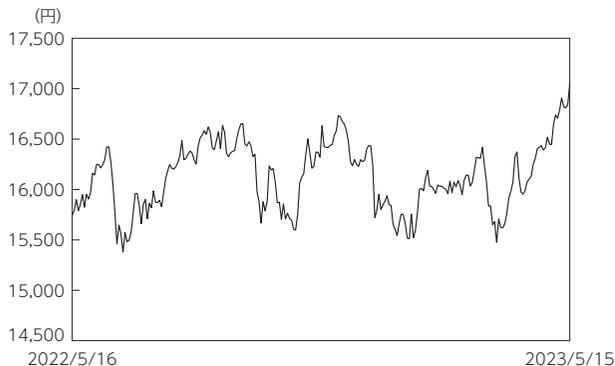
項目	第115期末	第116期末	第117期末	第118期末	第119期末	第120期末
	2022年12月14日	2023年1月16日	2023年2月14日	2023年3月14日	2023年4月14日	2023年5月15日
純資産総額	3,655,885,882円	3,416,196,387円	3,498,792,626円	3,390,893,516円	3,430,741,023円	3,541,587,830円
受益権総口数	3,163,254,612口	3,139,410,341口	3,118,159,165口	3,083,254,300口	3,056,020,591口	3,021,841,066口
1万口当たり基準価額	11,557円	10,882円	11,221円	10,998円	11,226円	11,720円

(注) 当作成期間(第115期~第120期)中における追加設定元本額は19,858,071円、同解約元本額は176,494,613円です。

組入上位ファンドの概要

インフラ関連好配当資産マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年5月17日～2023年5月15日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	25 (13) (12)	0.152 (0.078) (0.073)
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	25	0.152

期中の平均基準価額は、16,194円です。

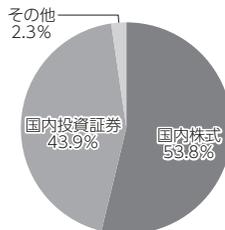
(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

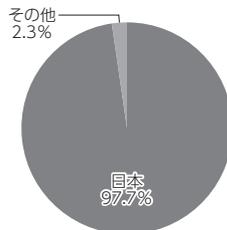
(2023年5月15日現在)

	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比 率
					%
1	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	3.6
2	日立製作所	電気機器	円	日本	2.8
3	日本電信電話	情報・通信業	円	日本	2.7
4	信越化学工業	化学	円	日本	2.7
5	野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	2.6
6	日本プロロジスリート投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	2.6
7	日本都市ファンド投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	2.3
8	東京海上ホールディングス	保険業	円	日本	2.2
9	GLP投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	2.2
10	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	円	日本	2.1
	組入銘柄数		75銘柄		

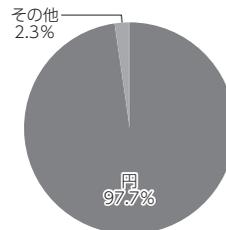
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。
 (注) 国(地域)および国別配分につきましては発行国を表示しております。
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI 国債

NOMURA – BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。